

○聖徳学園女短大 新田米子 甲子園短大(非) 渥美正子

愛知淑徳短大 佐藤芳美

目的 日々の生活の基本となる食生活に着目し、集合住宅入居者の食生活スタイルの類型化を試み、それらスタイルと間取りの志向、住生活意識との関連を明らかにする。

方法 名古屋市および同市近郊に立地する民間分譲集合住宅(2団地)の入居者を対象とし、アンケート留置自記法(一部郵送回収)による調査を、1992年11月21日～29日に実施。調査票の回収数は198、回収率67.6%であった。

結果 ①入居者の食生活スタイルは、食生活に関する20項目の意識(4段階評価)をもとに、数量化Ⅲ類により分析の結果、A<食生活・社交積極型>(28.3%)、B<食事手作り型>(23.0%)、C<食生活・社交消極型>(21.5%)、D<食事簡便型>(27.2%)の4つのタイプが抽出された。②間取り(L,D,Kの構成)の志向は、全体で、「K独立対面型」が60%で最も高く、ついで「K独立型」26%となる。これを4つのタイプで比較すると、A、Bタイプは「対面型」志向がとくに高まる傾向がみられ、各々61.1%、70.7%を占める。L,D,K構成の志向の理由についても各タイプごとの特徴が認められる。③接客頻度・様式をタイプ別にみると、A、Dタイプは接客頻度が高い。親しい客のもてなし方は、Aは「家族が使用する食卓で」(63.0%)であるのに対し、Dは「食卓で」(44.2%)と「ソファ等で」(34.6%)とに2分され、2者間に接客様式の違いがみられる。④居室に和室を1室以上希望する者は、どのタイプも8割前後を占めるが、「2室以上」希望する者は、C、Dタイプに若干多くなるのが特徴である。